

平成29年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年4月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1,414億円余
2. 前年同月比	-0.2% (8か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-0.1%(88.5%) : 非店頭-1.0%(11.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	869,327㎡ (前年同月比:-1.5%)
6. 総従業員数	18,120人 (前年同月比:-2.4%)
7. 3か月移動平均値	8-10月 -4.5%、9-11月 -3.0%、10-12月 -2.1%、 11-1月 -1.3%、12-2月 -1.7%、1-3月 -1.5%

[参考] 平成28年3月の売上高増減率は-1.1%

【特徴】

- (1) 3月の東京地区売上高は、全国同様に春物衣料の不振が響いて前年に届かなかった(0.2%減/8か月連続マイナス)が、入店客数については、各店で物産展等の食品催事や文化催事など集客施策を積極展開したほか、カード会員向けの優待企画、新規ブランド導入などの売場改装効果もあって、1.9%増と前年を超える結果となった。
- (2) 天候与件で動きの鈍かった衣料品は17か月連続マイナスだが、顧客のタンス在庫にはない、新規性とデザイン性を備えた一部商品に動きが出ている。また、卒業・入学など季節需要を捉えた子供服・洋品は0.4%増と、9か月ぶりにプラスに転換した。
- (3) 食料品は、菓子が2.4%増と4か月ぶりのプラス。前月好調だったバレンタインデーの流れを受けてホワイトデーのお返し需要が伸びたことが背景にある。食料品トータルでは、一部農水産物の不作不漁による価格高騰(生鮮食品3.6%減)や、お花見需要月ずれの影響(惣菜2.0%減)から、0.3%減と前年に届かなかった。
- (4) 雑貨は4か月連続プラスの2.3%増となった。細分類の化粧品(13.1%増)は国内・インバウンドともに好調で24か月連続プラス。美術・宝飾・貴金属(6.0%減)もマイナスながら、高級輸入時計の動きがよく高額消費復調の兆しを見せた。
- (5) 4月中間段階の商況は、好天に恵まれたこともあり1.5%増(4/17)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.6日 (前年同月比 -0.3日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
 - ①増加した: 8店、②変化なし: 6店、③減少した: 5店
- (3) 3月歳時記 (ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上 (同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した: 1店、②変化なし: 6店、③減少した: 5店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年03月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	141,464,387	100.0	-0.2
紳士服・洋品	10,695,081	7.6	-4.3
婦人服・洋品	24,775,765	17.5	-4.6
子供服・洋品	5,834,564	4.1	0.4
その他衣料品	2,368,733	1.7	-5.6
衣 料 品	43,674,143	30.9	-4.0
身のまわり品	19,310,169	13.7	-2.4
化粧品	14,050,779	9.9	13.1
美術・宝飾・貴金属	8,426,652	6.0	-6.0
その他雑貨	5,925,281	4.2	-7.0
雑 貨	28,402,712	20.1	2.3
家具	1,568,122	1.1	-37.1
家電	688,402	0.5	-26.4
その他家庭用品	5,682,838	4.0	8.3
家庭用品	7,939,362	5.6	-8.5
生鮮食品	4,242,579	3.0	-3.6
菓子	11,186,676	7.9	2.4
惣菜	6,472,727	4.6	-2.0
その他食料品	8,731,489	6.2	-0.7
食 料 品	30,633,471	21.7	-0.3
食堂 喫茶	3,130,998	2.2	-2.2
サービス	2,415,588	1.7	-7.7
そ の 他	5,957,944	4.2	68.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商品券	2,895,971 千円	-1.3
従業員数	18,120 人	-2.4
店舗面積	869,327 m ²	-1.5

営業日数	30.6 日	前年	30.9 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が4か月連続のプラスとなった。また、衣料品が17か月連続、身のまわり品が8か月連続、家庭用品が7か月連続、食料品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が24か月連続、菓子が4か月ぶり、子供服・洋品が9か月ぶり、その他家庭用品が11か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.2	-	8か月連続マイナス
紳士服・洋品	-4.3	-0.3	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-4.6	-0.8	17か月連続マイナス
子供服・洋品	0.4	0.0	9か月ぶりプラス
その他衣料品	-5.6	-0.1	4か月連続マイナス
衣料品	-4.0	-1.3	17か月連続マイナス
身のまわり品	-2.4	-0.3	8か月連続マイナス
化粧品	13.1	1.1	24か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-6.0	-0.4	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-7.0	-0.3	8か月連続マイナス*
雑貨	2.3	0.5	4か月連続プラス
家具	-37.1	-0.7	3か月連続マイナス
家電	-26.4	-0.2	4か月連続マイナス
その他家庭用品	8.3	0.3	11か月ぶりプラス
家庭用品	-8.5	-0.5	7か月連続マイナス
生鮮食品	-3.6	-0.1	13か月連続マイナス*
菓子	2.4	0.2	4か月ぶりプラス*
惣菜	-2.0	-0.1	9か月連続マイナス*
その他食料品	-0.7	0.0	3か月ぶりマイナス*
食料品	-0.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-2.2	0.0	2か月連続マイナス
サービス	-7.7	-0.1	9か月ぶりマイナス
その他	68.3	1.7	4か月連続プラス
商品券	-1.3	0.0	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>